

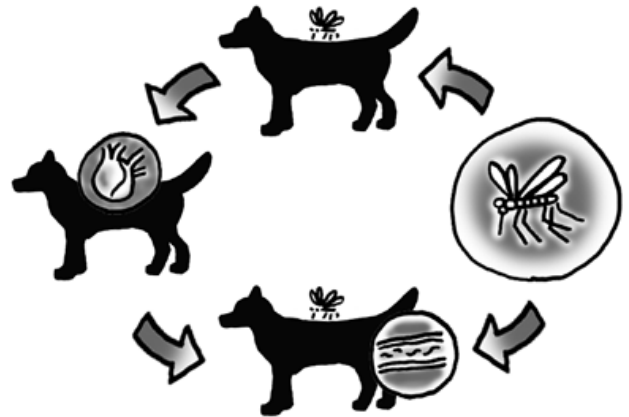
フィラリア症(イヌ糸状虫症)

犬の代表的な心臓病といえばフィラリア症です。フィラリア（イヌ糸状虫という寄生虫）が、心臓の内部に寄生することで起きる病気です。**蚊が媒介**して、犬から犬へと感染します（犬ほど多くはないですが、猫にも感染します）。

【感染経路】

フィラリアの成虫はまず、犬の心臓の中に寄生し、マイクロフィラリアという子虫を血液の中に産み付けます。アカイエカが犬の血液を吸う際に、このマイクロフィラリアも一緒に吸い込むことになり、今度は、このマイクロフィラリアが、蚊の中である程度発育します。

発育したマイクロフィラリアを体内に持っている蚊が犬の血液を吸う時、この発育した子虫が犬の体内へ送り込まれて寄生します。犬の体内に寄生した子虫は、2～3カ月の間に、皮膚などで発育して血管に入り、心臓に移動して右心室と肺動脈あたりで、太さ1ミリ、長さ20センチの成虫になります。



【症状】

軽症の場合は、少しずつ症状が現れます。蚊がいる時期になると、心臓に寄生するフィラリアがだんだん増え、最初の症状である乾いた咳をするようになります。この時期が長くなり慢性化すると、咳も激しくなり、咳をする時間も長くなります。咳がひどくなると吐くこともあります。

【予防】

毎年、蚊が出る時期（地域によって変動しますが、一般的には4月頃から）になったら予防薬を投与しましょう（蚊がいなくなっても1カ月は投与する必要があります）。

現在では錠剤タイプやチュアブルタイプから、滴下タイプ、注射タイプなどの**予防薬※**があります。注意したいのは、お薬を与える前に、必ず犬の体内のマイクロフィラリアの有無を確認することです。既にマイクロフィラリアに感染している犬に予防薬を与えると、ショックなどの副作用が現れる可能性があるからです。薬を与えると同時に、できるだけ蚊から遠ざけることを忘れずに。

※フィラリア症の予防薬は、「感染幼虫を殺滅すること」でフィラリア症を予防しているのであって、フィラリアの感染を防いだり蚊を寄せつけなくする、といったものではありません。